

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒がより主体的に活動を行い、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように教育課程を編成するとともに授業充実を図る。</p> <p>②生徒の学習ニーズに応えるとともに、言語活動とグローバル教育の充実を図る。</p>	<p>①教育課程の見直しについて、スケジュールを策定し、検討を進める。 ・生徒が主体的に活動できるよう学校行事や生徒会活動を充実させる。 ・授業改善に向けて組織的な取組を進める。</p> <p>②生徒のニーズを把握し、グローバル教育を進める。</p>	<p>①教育課程の見直しについて、スケジュールを策定し、検討を進める。 ・学校行事や生徒会活動を充実させ生徒の主体性を養う。 ・授業研究や研修会を実施し、言語活動を充実させるなど組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②グローバル社会で活躍する人材との連携を図り、生徒の意識改革に取り組む。</p>	<p>①教育課程の見直しのスケジュールを策定し、検討を進めたか。 ・生徒が主体的に取り組める行事の充実を図れたか。 ・授業研究や研修会を実施し、組織的な授業改善を行えたか。</p> <p>②生徒のニーズにあったグローバル教育により、生徒の意識改革を図れたか。</p>	<p>①平成30年度に実施する教育課程の改定を行い、生徒保護者等への周知を行った。 ・改定により、「授業時間」と、「体育祭、文化祭など生徒が主体的に活動する学校行事や生徒会活動の時間」の両方を確保できるようになる。 ・10月に5教科で外部助言者を招いて公開研究授業を実施し、授業改善を進めた。</p> <p>②ナミビア共和国駐日大使による講演会や留学生による講義、スピーチ大会やディベート大会など、グローバル教育を進め生徒の意識改革を進めた。</p>	<p>①生徒・保護者への説明を進めている。 ・平成29年度新入生の3年次の教育課程について一部検討課題が残っている。 ・生徒が主体的に取り組む行事や生徒会活動を充実させつつ、授業時間を確保するとともに授業改善に取り組む。</p> <p>②講演会だけでなく、日常の各教科の授業等においてもグローバル教育を進める。</p>	<p>○難関国公立大学への入学だけに焦点をあてるのではなく、どのような社会人になってほしいかに目を向けることが必要であり、カリキュラムや授業改善と共に、行事や部活動を充実させていくことも大切である。</p> <p>○授業改善には中学校や小学校の授業を研究するのもよいだろう。</p> <p>○グローバル教育の達成状況については高く評価できる。</p> <p>○目標が具体的でないと達成度が見えにくく、評価がしにくいのではないか。</p>	<p>①行事や部活動の時間を確保しつつ、授業時間を確保するカリキュラムの策定を進めている。生徒や保護者及び中学生への周知を進めている。 ・英語について、研究授業や研究協議を行い、教員間の情報共有や意識改善を図れた。 ・小・中学校との授業改善に係る連携を更に進めていく必要がある。</p> <p>②ナミビア共和国駐日大使による英語での講演や、中国高校生訪日団受け入れ、ディベート大会やスピーチ大会などを実施し、生徒の満足度は非常に高かった。</p>	<p>①学校目標を実現できるカリキュラムについて、生徒や保護者及び中学生に周知する。 ・公開研究授業と研究協議については継続していく。 ・小学校等の授業を見学する機会活用し、連携を進めていく。</p> <p>②上記①の研究授業でグローバル教育をテーマにする。また、教科横断的にグローバル教育の視点を取り入れる。外国からの訪問者受け入れをさらに推進する。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①コミュニケーション能力を養い、他者への思いやりを大切にし、主体的に行動できる人格を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりに目をむけて、適切な生徒理解に基づく生徒支援を実践するとともに、生徒が安心、安全な学校生活を送</p>	<p>①コミュニケーション能力と他者への思いやりの心を育て、生徒が主体的に行動し、他者との円滑な関係を築けるような人格育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりに目を向けて、適切な生徒理解に基づく生徒支援を実践する。 ・安心、安全な学校生活が送れるように相談体制を整備するとともに、</p>	<p>①学校行事、ホームルーム活動、授業、部活動等において、他者との円滑な関係を築けるように意見を交換したり課題を解決したりする力を育成する。</p> <p>②担任と教科担当者、部活動顧問などが情報を共有して生徒理解を進め、きめ細かな支援を行う。 ・相談体制を整備するとともに、防犯意識を醸成し、情報モラルの向上のために</p>	<p>①他者との円滑な関係を築けるように、意見を交換したり課題を解決したりする機会を設定できたか。</p> <p>②教員間の連携を密にし、生徒理解を進め、きめ細かな支援を行えたか。 ・相談体制を整備できたか。 ・生徒の防犯意識の醸成や情報</p>	<p>①体育祭、文化祭や部活動を通して、生徒が主体的に行動し、他者との円滑な関係を築けるような人格育成に努めた。</p> <p>②情報共有の機会を設け、適切な生徒理解に基づく生徒支援を進めた。 ・スクールカウンセラーやSSWとも連携し、相談体制を整備した。 ・ホームルームにおける日常の指導や職員による校内巡回な</p>	<p>①学校生活のあらゆる場面でコミュニケーションの場である。思いやりの心の育成や他者との円滑な関係を築ける人格形成を常に意識して取り組む。</p> <p>②スクールカウンセラーの配置が月に1回なので、複数配置が望ましい。 ・生徒の防犯意識の醸成につい</p>	<p>○授業や行事でコミュニケーションを大切にし、円滑な人間関係を築くことは大切である。授業でプレゼンテーションなど意見を主張する能力を育成していることや、部活動でマネジメント能力を育成していることも評価できる。</p> <p>○生徒理解のためには生徒と接する時間の確保が大切である。</p>	<p>①体育祭や文化祭で生徒が主体的に活動に取り組み、部活動の加入率も90%を超えており、全国大会等へ出場する部活動も4部あった。家庭学習等とのバランスが課題である。</p> <p>②担任や部活動顧問、養護教諭などが連携して相談体制を整えているが、さまざまな理由で学校を欠席がちな生徒が数名いる。</p>	<p>①行事や部活動で豊かな人間性を育成することは大切だが、学習とのバランスを適切にとるような指導を進める。</p> <p>②担任や部活動顧問、養護教諭などが連携して一人ひとりの生徒と向き合う。 ・生徒の防犯意識をさらに高める取組を進めるとともにモラル教育を継続して</p>

		れるように校内の整備を進める。	防犯意識を醸成し、モラル教育を進める。	情報提供と注意喚起を行う。	モラルの向上を図れたか。	どを通して防犯意識を醸成し、モラル教育を進めた。	て工夫が必要である。			行う。
3	進路指導・支援	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を確立し、組織的・体系的な進路指導を行う。それにより、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成を支援する。	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を確立し、組織的・体系的な進路指導を行う。それにより、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成を支援する。	①大学への接続を重視して大学の授業への参加を勧めるなど、外部機関や同窓会と連携して体系的に情報提供や啓発活動を実施する。 ・習得した知識や技能を活用する機会を設定する。 ・模擬試験や各種資格試験等の外部試験の活用を推進する。	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を確立し、体系的に情報提供や啓発活動を実施できたか。 ・習得した知識や技能を活用する機会や各種資格試験等により、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養うことができたか。	①外部講師による教員研修を実施し、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導を進め、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成に努めた。 ・外国人による英語での講演会を行ったり、英語外部試験においてスピーキングテストを導入するなど、生徒が習得した知識技能を活用する機会を設定した。	①生徒がより高い希望を持ち、実現に向けて具体的な行動できるような計画的な指導が必要である。 ・生徒が習得した知識技能を活用する機会を授業や行事等の中で設定し、発信していく能力を育成していくことが必要である。	○豊かな人間性の育成が大切で、それがあってこそ学力やその他の能力が活かされる。進路指導も大学進学後の目標に向かってのステップを示す教育に期待したい。 ○3年間のプロセスを重視して進路指導を行っていることは評価できる。生徒が自分自身を見極め、どう生きていくのかを考えさせることが大切である。	①各学年において3年間を見通した進路指導計画を立て、実施している。 ・生涯を見据えたキャリア計画が大切だが、卒業直後の進路先の決定に生徒の関心が集中しがちである。 ・外国人による講演会やディベート大会、中国からの訪問団受入など生徒が習得した英語力を活用する機会を設定することができた。	①大学等への進学が進路活動の目標ではなく、生涯設計の中でのキャリア計画となるよう生徒の意識改革を進める。 ・英語以外の分野でも生徒が習得した技能を活用する機会を設ける。
4	地域等との協働	①PTAや地域の教育機関との連携事業を推進し、地域の教育力を活用して地域とともにある学校づくりを推進する。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を推進する。	①PTAや地域の教育機関との連携事業を推進し、地域の教育力を活用するなど地域とともにある学校づくりを推進する。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を深める。	①PTAや地域の関係組織との連携により意見交換や情報共有を図り、協働による教育活動を行う。 ②生徒会や部活動を中心に地域貢献活動や交流事業を推進する。	①PTAや地域の教育機関と連携し、地域とともにある学校づくりを推進できたか。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を深められたか。	①体育祭や文化祭でPTAと連携したり、かるた部や陸上競技部が小学校との交流を行うなど、地域とともにある学校づくりを進めた。 ・地域貢献デーを設定し、地域防災チェックなど多様な活動を行った。 ②体育祭や文化祭、防災訓練などで地域の特別支援学校と交流した。	①地域の中学校や小学校等との連携を進める。 ②今後も生徒の実態と地域のニーズに合った地域貢献活動を企画・実践していく。	○地域の小学校や中学校との交流を進めていることは評価できるが、学校行事などについてももっと情報を地域に早めに発信していくことが必要である。 ○多彩な地域貢献活動を進めていることは高く評価できる。	①部活動において地域の小学校や中学校と交流するなど地域と共に学校づくりを進めている。 ・地域に対して情報の発信を適切に行う必要がある。 ②体育祭や文化祭で地域の特別支援学級との交流を行った。 ・地域貢献活動は毎年継続して実施している。	①大きな学校行事の予定などを早めに地域に発信していく。 ②生徒の実態と地域のニーズに合った地域貢献活動を計画・実施していく。
5	学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②事故不祥事の防止に努める。	①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②事故不祥事の防止に努める。	①防災マニュアルを継続的に見直すとともに、計画的な防災教育を行う。 ②事故防止会議を中心に、情報共有や意識改革を進める。	①防災マニュアルを継続的に見直すとともに、計画的な防災教育を行う。 ②事故防止会議を中心に情報共有や意識改革を進め、事故の未然防止を図れたか。	①防災マニュアルを改訂するとともに、津波避難訓練を実施した。地域の防災センターに1年生全員が訪問し、防災教育を実施した。 ②不祥事ゼロプログラムを策定し、事故防止研修会を行うなど不祥事の防止に努めた。	①防災マニュアルを毎年見直していく必要がある。 ②不祥事ゼロプログラムに基づき、事故不祥事防止の取組を進める。	○地域の防災センターに1年生全員が訪問して学習することはよい取組である。 ○防災対策や地域での貢献について、家庭との連携を進めるとよいだろう。	①防災マニュアルを見直したり、防災訓練・避難訓練・防災教育を計画的に行い、生徒の防災意識も高まってきた。 ・大規模災害に対する体制整備が課題である。 ②不祥事ゼロプログラムの取組を進めており、今年度も外部講師による事故防止研修会を計画している。	①大規模災害に対する体制の整備を進める。特に地域の方々の避難や一時滞在施設としての対応について確認する。 ②外部講師による事故防止研修会を実施する。